

□■タイ×島根県若手経営者交流会報告(1)■□

島根県主催の初の若手経営者交流会～未来をつくる「縁」をつむぐ

こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスの神谷です。

今回は2018年11月7日(水)～9日(金)に開催された島根県とタイの若手経営者交流会についてレポートします。

1. 若手経営者交流会の目的

次代を担う若手経営者同士の交流を通してタイ企業と島根県企業のグローバル競争力を強化するための試みです。この交流会がタイ・島根それぞれの企業が国内市場のみに留まることなく、ASEANをはじめとする海外市場へと広く目を向け、今後のグローバル展開へのきっかけとなることが期待されていました。

さらには参加企業同士の交流が続き、将来的な技術提携や協業なども視野に入れたパートナーシップの醸成につながることも願って交流会はスタートしました。

県庁産業振興課で島根県の主要産業の紹介をうける



2. プログラム内容

11/7	午前	島根県庁・しまね産業振興財団訪問
	午後	若手経営者交流会
11/8	午前	企業訪問 2 社
	午後	企業訪問 2 社
11/9	午前	企業訪問 1 社
	午後	しまね産業振興財団主催グローバルセミナー及び名刺交換会参加

島根・ビジネスサポート・オフィス便り vol.50

初日は島根県庁やしまね産業振興財団をタイ企業が訪問し、島根県の産業構造や魅力、今後の課題や期待などを共有しました。午後からの若手経営者交流会では島根県内企業4社とタイ企業4社の若手経営者による経営上の課題や考え方の共有、お互いの経営者としての人となりやこれまでの経験を語り合う中で、確かな関係構築を目指しました。

2日目は島根県から参加した企業4社への会社訪問を行いました。前日に相互の企業理解を深めてからの訪問でしたので、活発な質疑応答がなされました。日本のものづくりのマネジメントやタイの高齢化社会でも展開できる可能性のあるサービスなどタイ企業にとって発見の多い機会となりました。

3日目午前は既にタイに進出している株式会社研電社を訪問し、タイ企業と合弁にいたったプロセスやどのように課題を乗り越えたか、どのような製品をASEANで展開しているかなど、ご経験に根ざしたお話を伺いました。午後からはしまね産業振興財団主催のグローバルセミナーに参加し、海外展開プロセスにおける課題や乗り越え方など島根県企業・タイ企業・中小機構が登壇したパネルディスカッションや、公募で参加した県内企業の皆さんとのワークショップ、名刺交換会など言葉の壁も越えて大いに盛り上がりしました。



【初日交流会の様子】



【3日目グローバルセミナーの様子】

3.参加企業

○島根県企業

No.	社名	事業内容
1	モルツウェル株式会社	全国高齢者施設向け調理済み食品の製造販売事業 在宅高齢者弁当配食サービス事業 買い物生活支援、ロジスティクス事業 高齢者施設の厨房運営受託 運営サービス事業（コントラクトフードサービス）
2	株式会社コウダイ	ステンレス切削加工 ステンレス自動盤加工 各種自動盤加工・各種切削加工 超耐食ステンレス鋼 超耐熱ステンレス鋼
3	株式会社コダマ	プラントエンジニアリング（製鋼プラント施設、他） 鋳造（製鋼用鋳型、インゴットケース、他） 溶射（溶射コーティング、金属・セラミック・他）
4	株式会社大勢シェル	鋳造用中子製造 中子造形関連装置の製造・販売

〇タイ企業

No.	社名	事業内容
1	SMEs young entrepreneurs association	全国からの若手経営者、現在の社長の後継者、スタートアップが集まって設立した協会を運営。
2	S.P.Metal Part Co.,Ltd.	電気機器とオートパーツ用のスタンピング部品 金型成形から塗装加工までを一括で請負い（ワンストップサービス） オートパーツまたは医療機器を中心に事業を拡大して行きたい。
3	SCC Tech Co.,Ltd.	オートパーツ製造 スタンピング加工をはじめ溶接加工、アセンブリ加工、ファインブランク加工まで様々なニーズに応える。現在、電気機器業界へも拡大。将来的には医療機器業界への事業拡大に挑戦していきたい。
4	TO-I ENGINEERING Co.,Ltd.	レーザーカット、溶接、アセンブリ加工など様々な顧客の要求する図面通りに生産を実施。効率的にスピード感のある対応をしている。今後は 6x3 メートルのレーザ加工機や 6 メートルのプレス機を導入し、更なる事業の拡大をはかる。



参加企業 8 社

4.終了後のタイの参加企業からのコメント

タイの参加企業は 1 社を除いて日系企業が顧客だったり、仕入先だったり、なんらかの形で日本企業との取引経験のある企業です。その彼らから 3 日間の交流会を通して下記のような声を聞くことができました。

- ・このような交流会は見たことがなく、特徴があるいい交流会でした。この交流会に参加することによって、日本人起業家の仲間を作るいい機会と感じた。
- ・事業分野が近いので合併する可能性があり、将来的に取り組んでみたい

・この交流会に参加することによって、知識や考え方など将来的にビジネス拡大するために役に立てる色々なことを学びました。このような交流会を行う自治体はあまりないと思います。

タイ企業も日々進化しています。そして日本だけではなく中国・台湾・韓国など様々な国の企業がものの売買ではなく、パートナーシップを求めてタイ企業を訪れています。それはタイ企業を ASEAN 市場の窓口となるパートナーだと認めているからです。他国の企業とは異なるアプローチで、タイ企業の懐に深く入る方法を今後も模索する必要がありますが、今回の交流会はその目的において一定の成果はあったのではないのでしょうか。

5.次号では

今後進出を検討されている企業様のご参考にしていただけるよう、交流会やグローバルセミナーの中でどのような意見や考え方が共有されたのか、具体的な内容をご報告したいと思います。

次号へ続く

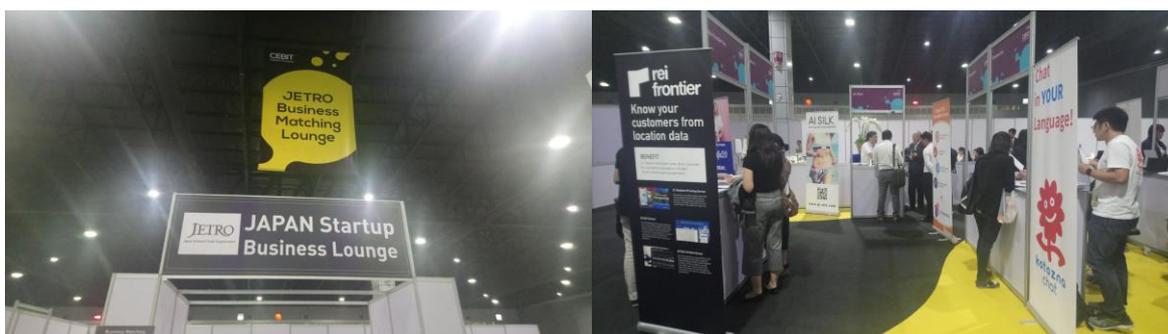
□ ■タイのインターネット環境と EC 市場 ■ □

CEBIT ASEAN Thailand レポート

2018年10月18日(木)～20日(土)ドイツ発祥の有名なIoT・デジタル技術等に関する展示会「CEBIT」が、「CEBIT ASEAN Thailand」としてASEAN地域で初めてタイ・バンコクにて開催されました。タイのデジタル経済社会省と科学技術省の肝いりで誘致された展示会です。

対象となる分野はIoT・デジタル技術全般、データ・クラウド、フィンテック、IoT・スマート技術、サイバーセキュリティ、人工知能(AI)、モビリティ、仮想現実(VR)など多岐にわたります。このイベントの中でも特に注目したのはJETRO Innovation Program ですが、加えて展示会を回る中でタイのEC市場の現在についても関心が高まりましたので、この二点を中心にお伝えします。

■ JETRO Innovation Program (JIP)ASEAN(タイ)・プログラム



「CEBIT ASEAN Thailand」をビジネスマッチングの場として、ピッチ・商談会の実施、スタートアップゾーンへの出展を行うだけでなく、事前にビジネスモデル構築研修「Boot Camp」、専門家との面談(メンタリング)などを行い、商談準備から事後のフォローアップ・ビジネスマッチングまで一貫して支援するプログラムでした。

タイで関心が高くニーズが期待できる分野として下記の4分野を掲げ、日本のスタートアップ企業を募集し、選考を潜り抜けた7社が実際にCEBIT ASEAN Thailandに参加していました。

- ◇フィンテック :KYC(Know Your Customer)、決済分野
- ◇マーケティングテック :EC、店舗・観光のプロモーションや販売促進分野
- ◇AI・IoT・ロボット分野:実用性の高い技術・製品
- ◇ビッグデータ :分析・処理のためのデータセンターやサーバファーム等

<参加していた7社>

1.Rei Frontier Inc. <https://www.rei-frontier.jp/>

人工知能による位置情報分析プラットフォーム「SilentLog Analytics」の開発・運営

2.Skydisc. Inc. <https://skydisc.jp/>

IoT 化をサポート。ハードから通信、AI まで、IoT を利用した業務改善で必要となるサービスをワンストップで提供。

3.AI Silk <http://www.ai-silk.com/>

①エーアイシルク(電極)の製造・販売

②エーアイシルク(電極)の応用関連商品の製造・販売

エーアイシルクは、染色の技法でつくられる新しい導電性繊維。天然由来のシルクを用い繊維自体に導電性を持たせることで、装着時の不快感や皮膚・生体内での炎症、発汗などによる計測不良など従来の医療用電極が抱えていた課題・リスクを低減することに成功。ストレス無くバイタルデータを計測でき、医療・健康分野はもちろん、さまざまな分野での応用可能性を持った新素材。

4.Habi *do(by Be & Do Inc) <https://habi-do.com/>

社員のエンゲージメントを高めることで生産性をあげることを目的にしたアプリケーション。目標・行動の設定→振り返り→承認→評価をわかりやすく見える化。

5.Kotozna Inc. <http://kotozna.com/>

Facebook Messenger、LINE、WeChat、Kakao Talk などをブリッジする仕組みを開発し、さらに AI を活用した機械翻訳を組み合わせることで、Facebook Messenger と LINE のような異なる SNS 同士でも各ユーザの母国語でメッセージができる多言語同時翻訳サービス

6.Pop Inc. <http://www.pogogogo.com/#home>

Shake Shutter Sensor を用いた新しいスマートフォンカメラ

7.Warantee <https://corp.warranty.jp/>

保証書電子化・管理アプリ Warranty(ワランティ)を使うと、簡便な操作で保証書がデータ化され、クラウド上に保管され、簡単に管理できるサービスを手がかりにデジタル CRM 自動化サービスを目指す。

参加各社のブースには切れ目無く、人が訪れているのが印象に残りました。

■JAPAN Innovative Startup Talks by JETRO (Pitch event)

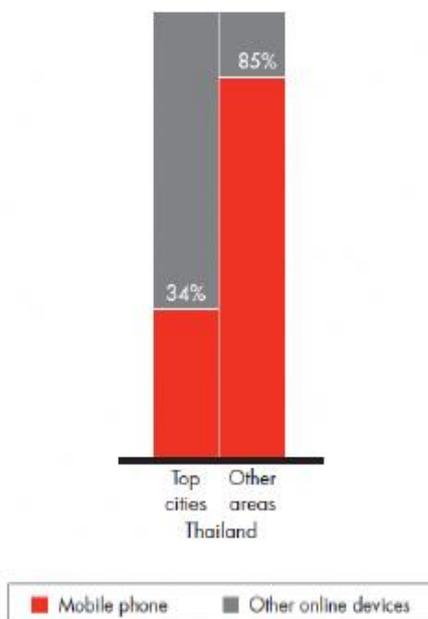
展示会 3 日目の 10 月 20 日には上記 7 社によるピッチイベントが開催されました。わずか 5 分間のプレゼンテーションでしたが、どのような新しい価値を生み出そうとしているのか、そのためにタイで何を必要としているか(戦略的なパートナー、一緒にテストケースに協力してくれる企業、資金提供など)がとてもよく伝わってきました。彼らは今あるアプリケーションや製品を売りたいわけではなく、彼らが提供したい価値をタイという市場に併せて一緒に磨くパートナーを必要としているのです。このアプローチはタイにおいて、とても歓迎されていると聞き手の様子を見て強く感じました。



Thailand4.0 の中でもデジタル産業は他の産業の進化を推し進める上で非常に重要な産業として位置づけられています。また、タイに限らず ASEAN の各国では日々新たなサービスが湧き起こっています。特に e コマースは非常に注目を集めている事業です。

次にタイの e コマースの現状について共有したいと思います。

■タイの EC 市場



出典: Bain Southeast Asia Digital Consumer Survey, November 2015

展示会の Jetro Innovation Forum の中で、タイ EC 協会会長からタイの 2017 年の電子商取引実績は 1500 億バーツ (約 5,170 億円 1 バーツ=3.44 円) 前年比 29% 増という発表がありました。タイの e コマースの特徴は Social Media (LINE, facebook, Instagram など) のシェアが 40% を占めるという点です。日本であればおそらく Amazon や楽天、Yahoo などの大手サイトで 50% 近くを占めているところですが、これはタイのネット普及率によるところが大きいです。2015 年の調査ではありますが、オンラインで商品を購入するあるいは商品のリサーチをする際のデバイスは都市部で 34%、郊外では 85% の人が携帯を使っていると答えています。

売上の上位を占めるのがゲームなどのメディア製品、ついで家電製品、食料品・飲料と続きます。ネットを通して購入しても品質が変わらないものがやはり人気ようです。私自身、水や洗剤などの重たいものやティシュペーパーなどかさばるもの、暑い日に外に出たくないときなどにネットスーパーやフードデリバリーは非常によく利用します。

■主な e コマースプレイヤー

<EC モール>

LAZADA <http://www.lazada.co.th/>

タイの主要なオンラインショッピングサイト。不動産、美容商品、生活用品、家電、ファッション雑貨など幅広い商品を取り扱う。シンガポール、マレーシア、インドネシア、ベトナムなど東南アジア各国で展開中。

Kaidee <https://www.kaidee.com/>

タイ国内のアクセス数ランキング Top20 にも入る、CtoC のフリーマーケットサイト。中古車、宝石・アクセサリー、二輪車、モバイル・タブレット、不動産、ファッション・バッグなどが利用上位。

Pan Tip Market <https://www.pantipmarket.com/>

新品と中古の両方を扱う CtoC 及び BtoBtoC のショッピングサイト。取扱商品は車・バイク・電子機器など多様な商品を取り扱う。

Central Online Shopping <http://www.central.co.th/>

タイのショッピングモール大手のセントラルグループが運営するサイト。

<ネットスーパー>

Big C <https://www.bigc.co.th/>

タイの大手スーパーマーケット Big C が運営するサイト。家電やリビング用品、食料品などを取り扱う。午前 11 時までの注文で翌日配送。

Tops <https://www.tops.co.th/en/>

バンコクに 92 店舗、郊外に 55 店舗を展開する Tops market のオンラインショップ。食料品をはじめ、ワインや美用品、健康関連食品を取り揃えている。注文してから 24 時間以内に配送。

Happy Fresh <https://www.happyfresh.co.th/>

2014 年設立のインドネシア・ジャカルタ生まれのネットスーパー。マレーシアでも既にサービスを開始しており、今後も東南アジアを中心に展開する予定。タイ国内の様々なスーパーと提携しており、自分の好きなスーパーの商品を注文することができる。最短で 1 時間以内に配送可能。

<フードデリバリー>

Foodpanda <https://www.foodpanda.co.th/>

2012 年設立。26 カ国に展開。日本語対応も可能。提携レストラン数 1100 店以上。

LINE MAN <https://www.facebook.com/linemanth/>

フードデリバリーだけでなく、コンビニ商品の配送なども依頼できる。配送サービスは 24 時間利用可能。

Grab food ※アプリのみ対応

Taxi や Bike taxi の配車サービスアプリから始まり、現在はフードデリバリーも展開。タイ語メニューが多い。

<EC の配送事情>

EC を利用するにあたって、タイの渋滞事情をご存知の方には配送時間は守られるのか？という点は気になる場所だと思われます。この 2 年間の中でほぼ毎週何かしら利用している自分自身の経験では概ね守られるといえます。というのも、ネットスーパーやフードデリバリーの配送手段はバイクだからです。ある程度の渋滞は回避可能です。過去それでも困ったのが、突然の豪雨でバイクの配送が困難になりサイトからの注文そのものを受け付けない状態になった(くるぶしくらいの洪水は時々あるバンコクで、ドライバーの安全を考えたら当然の対応)ことと、配送時間を夕方時間指定をしていたのにも係らず、商品のピックアップが早く済んでしまったために早めに配送したいと電話がかかってくるまで帰宅したことくらいです。

ただし車での配送が必要なもの場合はその限りではありません。家具の配送を頼んだときは、大事をとったのか予定時間の 1 時間前に到着したり、その逆で 2-3 時間送れて到着ということもありました。もちろん事前に電話連絡はあります。交通事情が厳しいので日本のようにほぼ守られるということはまだ難しいかもしれません。

EC モールの大手の LAZADA はタイの複数の物流会社、郵便局、自社物流、日系、韓国系、グローバル大手などを使い分けて対応しているようです。なかでも KERRY EXPRESS という 2006 年に創業したタイの物流企業は LAZADA との取引を皮切りに他の人気 EC モールと提携し、急成長を遂げているようです。

タイ EC 協会の会長は E コマースはタイ人にとってエンターテインメントそのものだと講演の中でコメントしていました。自宅でショッピングをして、それが翌日に届く、その経験は今までにない楽しい経験だということです。バンコクは 800 万人以上の人口が集中し主な駅ごとにショッピングモールがあるような場所ですが、少し郊外に出ればそのような光景は見られなくなります。その環境において物流が今後益々改善されていけば、ますます娯楽としての E コマースは成長していくように思います。

☆☆タイから便り☆☆

～癖になるタイ人の職場での間食～

こんにちは。初めまして、島根・ビジネスサポート・オフィスのタイ人スタッフ、タムです。

初めにタイに赴任された駐在員はいろいろなタイの文化に対してカルチャーショックを感じる方もいるでしょう。時間をあまり守らないことや、歩きながら食べることなどはタイに来る前に聞いたことがあるかと思われますが、それ以外にも職場の中でタイ人がよくすることで、外国人を驚かせることがあります。今回はまだご存知ないかもしれない「癖になるタイ人の職場で間食」について、皆さまにご紹介したいと思います。

なぜ、タイ人はよく間食するの？

あまり良くない習慣だと言えるかもしれませんが、タイ人の多くは楽しく優しい性格を持っていて、常識の範囲でなら、ちょっとだけ規則に対して違反してもお互いに許しあいます。そのためタイの厳しくない職場では、職場で間食することが許されていたりします。また、バンコクにある日系企業の多くはスクンビットやシーロムなどビジネスが盛んなエリアに集まっているので、朝はかなり渋滞して事務所に着くのは勤務時間ぎりぎりになることが多く、家での朝食の時間もなかなかとれない状況です。そのため事務所までの通り道で朝、食品や飲み物を買って職場で朝食を食べることにする人も多いです。

タイは世界の台所と呼ばれ、どこにいても屋台・お店があって、いつでも食べ物を探せると言う話は皆さんも聞いたことがあると思います。その豊富な食材やメニューの中から職場での朝食・間食としてタイ人に人気のあるメニューについてご紹介させていただきます。

職場での朝食や間食として人気のメニュー

1. カオニャオムーピン(焼き豚ともち米)



美味しさに加えて食器が不要な為このメニューは朝の忙しいときには最高の食品だと言えます。そのため事務所が集まるオフィス街に朝にカオニャオムーピンの屋台が出ていることがよくあります。その周辺がムーピンのいい香りに包まれていて、その美味しそうなおいに耐えられず、食べたくなります。ただし、その香りはかなり強いので、苦手な人がいたり、オフィス内で食べたら回りに迷惑をかけることもあるので、職場で間食する場合は周囲の様子を見てから食べる方がいいと思います。

上記の画像は ThaiArcheep.com から引用しております。

2. **ミルクティー・アイスコーヒー** オフィス街では飲み物屋さんには欠かせないものの一つであると言えます。朝に食欲がなくて軽食にしたかったり、職場で間食が禁止されてたりする人にとっては、これらの飲料がその問題に対してどうにか対策出来るものになります。お腹がいっぱいになるまでにはさせないが、その甘さでエネルギーを満たしてお昼休みまで空腹にならずにいられるかもしれません。また、飲料なので、勤務時間内に飲んでも特に問題にならないでしょう。しかし、ほぼ全てのタイの飲み物は大変甘いので、甘すぎると感じる方は注文する際に注意しないといけません。



タイ人が好きな甘いタイミルクティー

3. **フルーツ&ディップ** 昼食の後に小腹がいっぱいになると眠くなることはよくあるなので、青いマンゴーの酸っぱさで目を覚ますという方法で対策する人もいます。酸っぱいだけじゃつまらないから、タイ人はよくディップと一緒に食べています。ディップの中で一番の人気は塩唐辛子ディップ。しょっぱくて辛い味で酸っぱさに混ぜるとおいしく止まらない味になります。



青いマンゴーと塩唐辛子ディップ

4. **ポテトチップス・のりスナック** ポテトチップスのサクサクの感覚でつまらない午後をどうにか楽しく過ごすことができます。ただし、ポテトチップスは脂質が高いため、最近ヘルシーフードのトレンドが流行っていて、ポテトチップスの代わりにのりスナックを選択する人が増えています。数年前にのりスナックが大人気となり、外国人の旅行者にとってもタイお土産として人気があります。



タイで人気なお土産「のりスナック」

職場で間食は勤務規則に違反であることは間違いないことですが、お腹が空いたままでは脳の働きの効率が下がるかもしれないので、ちょっとした間食はそんなに仕事に悪い影響を与えないのではないのでしょうか。

このタイの職場での朝食・間食の癖を解決する方法は、間食を禁止するというルールを決めることでももちろん効果があると思いますが、軽食によってストレスを削減することができるというメリットもありますので、パントリールームを設置してそこでちょっとだけ間食することは OK にするというのはいかがでしょうか。

【展示会情報】

※別紙に、年内に開催予定のタイ・インドネシア・ベトナムの展示会情報をまとめました。

サポートオフィスでは、現地で開催される展示会へのアテンドも行っております。

関心のある展示会がございましたら、お気軽にご連絡ください。

担当；神谷 靖子 Yasuko Kamiya

Address :1 Glas Haus Building, 12 FL., Room 1202/D,Soi Sukhumvit 25,
Sukhumvit Rd.,Klongtoey-Nua,Wattana,Bangkok 10110

Tel :+66-(0)-2-261-1058

Mobile :+66-(0)-89-200-7763

Mail : shimane-bizsup@aapth.com

➤ タイ経済指標

項目	単位	2015	2016	2017	2018
GDP 成長率	前年比ベ(%)	2.8	3.2	3.9	4.3(1~9月)
人口*	千人	67,293	67,506	67,697	67,824(8月)
労働者の数*	千人	39,165	37,792	37,716	38,391(9月)
失業率**	%	0.89	0.99	1.18	1.10(9月)
最低賃金*	バンコク	300	300	310	325(10月)
	チョンブリー	300	300	308	330(10月)
	アユタヤー	300	300	308	320(10月)
	ラヨーン	300	300	308	330(10月)
賃金: 全国製造業の平均	バーツ	12,305	12,402	12,473	12,825(9月)
インフレ率**	前年比ベ(%)	▲0.90	0.19	0.67	1.14(9月)
中央銀行政策金利*	%	1.50	1.50	1.50	1.50(10月)
普通貯金率**	%	0.56	0.47	0.47	0.47(9月)
ローン金利(MLR) **	%	6.75	6.47	6.35	6.32(9月)
SET 指数*	1975年:100	1,288.0	1,542.9	1,753.71	1,669.09(10月)
バーツ/100円**	バーツ	28.31	32.53	30.27	29.29(10月)
バーツ/米ドル**	バーツ	34.25	35.30	33.9	32.21(10月)
円/米ドル**	円	121.0	108.8	112.2	109.91(10月)
車販売台数(1月からの累計)	台数	795,905	765,593	869,763	776,178(9月)
BOI 認可プロジェクト	件数	2,237	1,688	1,227	1,118(1~9月)
BOI 認可プロジェクト金額	10億バーツ	809.4	861.3	625.08	466.51(1~9月)

*期末、**平均